

2023(令和5)年度

子ども・若者ご縁づくり推進にかかる活動方針・事業計画書

2022(令和4)年度 基本立案第61号 (2023年1月27日付決裁)

1. 目的

親鸞聖人のみ教えのもと「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会」の実現に貢献する。

2. 活動理念

キッズサンガの理念を継承し、「ご縁づくり」を「教化活動」ととらえ、全宗門をあげて「既にご縁のある者一人ひとりが、子ども・若者層を対象に阿弥陀さまのご縁に共に遇ってゆける活動」を行うことで、子ども・若者にも「手を合わせ、お念仏申す」人となってもらい、「阿弥陀さまの心に、すでに私の居場所が用意されていたことに気づいていく」ことを理念とする。

3. 活動テーマ

浄土真宗とのご縁を ～つくり・つなぎ・深める～

4. 活動方針

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息、ご親教『念仏者の生き方』・『私たちのちかい』のお心を、浄土真宗は自分自身の在り方に目覚めていくものであると受け止めつつ、新型コロナウイルス感染症の影響により思うように出来なかったご縁づくり活動を再起動させていく。

(1)ご縁を「つくる」。(浄土真宗の窓口)

先ずは「寺院」「僧侶」「合掌」「称名」に違和感無く馴染んでもらう。

(2)子ども・若者層の現状を知る、そして寄り添う。

新型コロナウイルス感染症の流行により、人と人との関係性がより希薄になっている今、生きづらさを抱えている、いないに関わらず一人ひとりとの関係を大切にしていける。

(3)ご縁づくり推進ガイドラインの「3つのかたち」※1「3つの視点」※2で継続的に各活動に取り組む。

この活動は各寺院にご縁のある子ども・若者層をはじめ、お寺にご縁のなかった子ども・若者層すべてに対して行っていく。

(4) ご縁づくり活動が宗門内に常態化するための活動を行う。

「ご縁づくり白書」(仮称)を編纂公開し宗門の教化態勢を再確認する。

各教区の「子ども・若者ご縁づくり推進委員会」及び教区マネージャーやサポーターが安心してご縁づくりを推進できるような情報の共有や人材育成の支援を行う。併せて寺院子弟の育成にも注力をしていく。

(5) ウイズコロナ、ポストコロナのご縁づくりを行う。

新型コロナウイルス感染症の流行により、人と人との距離を取らなければならない中で、繋がりそのものまでも失われつつある現在、いま一度「繋がり大切さを実感できる」ようご縁づくり活動に取り組む。

5. 事業計画

『「ご縁づくり」活動推進会議』、「子ども・若者ご縁づくり推進委員会」と「部会」及び「子ども・若者ご縁づくり推進室(以下「推進室」という。)」が協働して事業を推進する。

(1) 「ご縁づくり」活動推進会議(マネージャー会議)

- ① ご縁づくり活動推進の現状把握並びに年度活動方針・事業計画の策定
- ② 各部会における活動内容の把握、必要に応じて提言
- ③ 各教化団体と協働のための協議及び他宗派等と交流
- ④ 子ども・若者ご縁づくり連絡協議会、教区マネージャー研修会等の内容検討
- ⑤ その他

(2) 子ども・若者ご縁づくり推進委員会

- ① 「ご縁づくり」推進上の課題について共有と協議
- ② 子ども・若者ご縁づくり連絡協議会や教区マネージャー研修会等の内容確認及び運営
- ③ 本年厳修される慶讃法要の協讃行事(子ども・若者)への参画
- ④ その他

【部 会】

〈子どもご縁づくり部会〉

- ① 子どもへのご縁づくり(キッズサンガ)推奨と事例収集および広報
- ② 寺院子弟の育成にかかる活動の推奨
- ③ その他

〈若者ご縁づくり部会〉

- ① 現代版寺子屋「スクール・ナーランダ」の企画・実施
- ② スクールナーランダの要素を取り入れた新たな伝道活動を提唱

- ③中高生世代を対象としたご縁づくりの企画・実施（SNS等も含む）
- ④その他

〈思春期・若者支援部会〉

- ①思春期・若者支援コーディネーター養成研修会の継続開催
- ②上記研修会修了者への支援とネットワーク構築
- ③「生きづらさを抱える課題に取り組んでいること」について、宗派内外への発信
- ④その他

(3) 推進室

- ①「ご縁づくり白書」（仮称）の編纂と公開（作業部門を編成）
- ②WEBサイトの管理と更新
- ③関連講座・研修会・学会・協議会等への出向（推進委員・職員）
- ④宗派内各機関との連絡・連携
- ⑤僧侶育成機関及び研修会におけるご縁づくり周知にかかる講師派遣
- ⑥各教区「子ども・若者ご縁づくり」推進事業に対する助成
- ⑦その他推進全般

【活動内容参考資料】

○教区・組での取り組みのために

- ・子ども・若者ご縁づくり連絡協議会及び研修会の開催
- ・教区サポーターの発掘・養成並びにスキルアップ研修
- ・組における子どもの集い～キッズサンガ～再スタートの促進（教区少年連盟と共に）
- ・子ども・若者の現状（思春期・性の悩みなど）を学ぶ講座・研修会の実施
- ・生きづらさを抱える子ども・若者へ寄り添う取り組み（子どもの貧困への取り組み、子ども食堂・おやつクラブへの参画等）
- ・組や寺院に対する児童念仏奉仕団への参加奨励（少年連盟と連携し、教区で奉仕団を組織することも可能）
- ・仏教婦人会連盟と連携した初参式・小学校入学祝い会等の開催奨励
- ・次世代の寺院子弟育成（教区・組「寺院子弟研修会」の開催）
- ・中学・高校生年代との接点をつくる「つどい」の奨励及び情報発信
- ・若者層の仲間づくりを促す取り組み（仏教青年会連盟と共に）

●宗派（推進室）として取り組む事項

- ・「子ども・若者ご縁づくり」の方向性を宗派内に周知する活動（継続事業）
- ・思春期・若者支援コーディネーター養成研修会の継続実施、事後研修

- ・カルトから子ども・若者を護る対策等における総合研究所との連携
- ・教化団体（特に仏青連盟）及び龍谷総合学園との連携強化
- ・保育連盟・少年連盟等、教化団体と教材・人材・手法に関する共有連携
- ・次代の僧侶・寺族の育成のため教区並びに有志で取り組まれている教区青年僧侶の会・教学勉強会・勤式学習会などへの後方支援
- ・メディアやインターネット（SNS）を利用した情報戦略に関する取り組み
- ・新しいカタチの伝道活動を企画実施・提案（坊主barなど広範囲で）
- ・教材の作成及び各教区作成の教材紹介・斡旋、並びに取り組事例紹介
- ・他宗派と次世代育成についての意見交換及び交流
- ・その他必要と思われる事項

※1 「3つのかたち」

①日常生活でのご縁づくり

子ども・若者たちの生活の中で「合掌すること」「お念仏を称えること」が自然に身につくように働きかける

②平素の法務、法要、行事でのご縁づくり

子どもや若者たちに法務、法要、行事を通して阿弥陀さまのご縁をつくりお寺に馴れ親しんでもらう。

③子ども・若者に特化した集いでのご縁づくり

子ども・若者にお寺に集ってもらい様々な行事を行う

※2 「3つの視点」

①子ども・若者の今にみ教えを

子ども・若者の置かれている現状を学びつつ、阿弥陀さまの救いを伝える

②お寺を本来のすがたに

様々な年代の人々が、み教えとともに集うお寺のあり方をめざす

③お寺どうしが力を合わせて

組内寺院が申し合わせをし、各寺院が支え合う

〈付註〉

- ・「子ども・若者ご縁づくり推進ガイドライン」P5～P9参照
- ・「子ども・若者ご縁づくり」～キッズサンガをさらに～スタートアップガイド参照